

普及活動情勢報告（平成28年6月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

露地栽培の現地指導 ～がんばる新規就農者～



ほ場での指導

農業改良普及課は、5月31日の町上八川において、吾北の農業公社での農業研修を4月に終えた新規就農者の経営安定を図るため、露地ピーマンの栽培指導等を行いました。

定植直前にけがをされたため、定植が遅れましたが、液肥等の対策により、定植から約1週間過ぎ徐々に葉色が出てきました。まだ、花、実をピーマンの生育を見ながら除いていかなければなりません、本人も頑張る気持ちを見せてくれています。

農業改良普及課では、今後も定期的に指導を行い、関係機関で連携を取り見守って行きます。

環境制御技術勉強会の開催

～細霧装置・日射比例灌水システムを効果的に使おう～



機器の説明に聞き入る参加者

中央西地区では、本年度の環境制御技術普及推進事業において細霧装置や日射比例灌水システムなどが補助対象として拡充したことから、これらの機器の導入を希望している生産者がいます。

そこで、6月3日、これらの機器について理解を深めるため、中央西地区環境制御技術研究会による勉強会が行われ、12名（生産者5名）が参加しました。

農業振興センターからは、細霧を利用した時のメリットやデメリット、細霧装置や日射比例灌水システムを利用した事例などについて説明しました。

また機器メーカーからは対象機器の特徴などについて説明があり、参加者らは機器の価格や拡張性など具体的な質問がされました。

農業振興センターでは、環境制御技術に関する機器の利用について情報を収集し、効果的に使用する方法を検討していきます。

全国19のメロン産地が集結した”メロンの祭典”第2回全国メロンサミット開催 ～毎月6日が「メロンの日」に認定されました～



JAとさしメロン部会のブース

6月4～5日、茨城県銚田市で全国メロンサミットが開催され、土佐市のメロンのさらなる発展を目指し、土佐市長を始めJAとさしメロン部会（6名）と関係機関（5名）が参加しました。

初日は、静岡県袋井市のクラウンメロンの輸出事例報告や茨城県オリジナル品種の開発秘話が紹介され、M19サミット（産地首脳会談）では、毎月6日のメロンの日（日本記念日協会に認定）と、各産地のメロンの日（産地の旬の時期の6日）を合わせてPRすることが決まりました。2日目は、農業改良普及課も協力し、「仁淀ブルー」（高岡支所メロン部会）、「プリンセスニーナ」（新居支所メロン部会）の試食販売と、各ブランドをPRしました。

参加した部会員からは、「2万人を超える来場者が訪れる中、大変だったが、来年のサミット（山形県鶴岡市開催）にも続けて参加したい」という声が聞かれ、農業改良普及課も引き続き支援していきます。

組織力で岩戸米を盛り上げよう
～土佐岩戸米営農組合研修会～



ただいま研修中



ほ場マップ案

6月20日、土佐岩戸米営農組合の研修会が開催されました。岩戸地区は、良食味で知られる米の産地ですが、組合員の高品質米の生産意欲が高く、更に産地を発展させようと26名中21名の参加がありました。

農業改良普及課は、早期稲の生育状況と今後の管理、および高知県の水田農業の振興等について指導しました。組合員から栽培上の留意点について熱心に質問が寄せられました。

また、米のブランド化による付加価値付け、農地の安定的な維持管理、技術の伝承と向上の重要性や、農地の有効利用のためのほ場のマップ化も確認しました。

今後、農業改良普及課は、岩戸米のブランド力向上やマップ化等の組織活動を通じ、岩戸地区の農業・農地の維持発展を支援します。